

平成26年3月11日
総合評価方式の活用・改善等による
品質確保に関する懇談会

参考資料1

総合評価落札方式(二極化)フォローアップ調査 アンケート調査票 等

施工能力評価型 (1/4)

総合評価落札方式(二極化)に関するアンケート調査
(施工能力評価型適用工事・競争参加者(施工計画等作成担当者)用)

本アンケート調査は、平成25年度の二極化の本格実施に伴い、施工能力評価型により入札・契約がなされた工事を対象に実施します。
 調査対象工事について、それぞれ以下の設問に施工計画等の作成担当者(または配置予定監理技術者)がご答えください。

注) 回答欄 : 記述回答 : 選択肢回答

設問Ⅰ 調査対象工事及び回答者の属性

設問Ⅰ-1 調査対象工事の名称等
 調査対象工事の名称、発注整備局及び事務所の名称をご記入ください。

工事名称	〇〇〇工事		
発注機関	整備局名	〇〇地方整備局	
	事務所名	〇〇河川・国道事務所	

設問Ⅰ-2 回答者の所属
 本調査に回答いただく回答者の所属をご記入ください。

所属	企業名	株式会社〇〇	
	部署名	〇〇支社〇〇課	

設問Ⅰ-3 回答者の調査対象工事との関係【複数選択可】
 本調査に回答いただく回答者の調査対象工事における関係について、該当する項目を選択してください。

①施工計画等の作成担当者
 ②監理技術者または主任技術者(配置予定)
 ③現場代理人(配置予定)
 ④営業担当者
 ⑤その他
 ⑤の具体内容 ()

設問Ⅰ-4 回答者の所属企業における国土交通省発注工事の受注実績
 回答者が所属する企業の、国土交通省直轄工事の受注実績について、過去2か年度の実績件数(概数で構いません)をご記入ください。

平成23年度	約	0	件
平成24年度	約	0	件

設問Ⅱ 調査対象工事の基本情報

設問Ⅱ-1 調査対象工事の施工能力評価型のタイプ
 調査対象工事に適用された新たな総合評価落札方式(以下、「新方式」という。)のタイプを選択してください。

〔選択肢〕 ①施工能力評価型Ⅱ型
 ②施工能力評価型Ⅰ型(施工計画「可」「不可」評価のみ)
 ③施工能力評価型(施工計画点数評価)

〔回答欄〕 ()

設問Ⅱ-2 「より同種性の高い工事」実績の評価の有無
 調査対象工事において、企業・技術者の同種工事実績の評価に対し「より同種性の高い工事」実績の評価の有無を選択してください。

(1) 企業の能力等

〔選択肢〕 ①評価の対象
 ②評価の対象外

〔回答欄〕 ()

(2) 技術者の能力等

〔選択肢〕 ①評価の対象
 ②評価の対象外

〔回答欄〕 ()

設問Ⅱ-3 施工計画の評価の有無
 調査対象工事において、施工計画に係る評価の対象の有無を選択してください。

〔選択肢〕 ①評価の対象
 ②評価の対象外

〔回答欄〕 ()

設問Ⅱ-4 段階選抜の採用の有無
 調査対象工事において、段階選抜の有無を選択してください。

〔選択肢〕 ①段階選抜あり
 ②段階選抜なし

〔回答欄〕 ()

設問Ⅱ-5 技術者ヒアリングの評価の有無
 調査対象工事において、「技術者ヒアリング」(監理能力、施工計画の理解度)に係る評価の対象の有無を選択してください。

〔選択肢〕 ①評価の対象
 ②評価の対象外

〔回答欄〕 ()

設問Ⅲ 二極化による効果、課題等

設問Ⅲ-1 調査対象工事における二極化の効果と課題等
 二極化としたことにより、従来方式(簡易型)と比較し、調査対象工事において確認できた、もしくは期待される効果や課題等、該当する項目を選択してください。

(1) 実績等技術資料(施工計画を除く)の作成

〔選択肢〕 ①負担が軽減した
 ②変わらない
 ③負担が増加した

〔回答欄〕 ()

①~③の選択理由 ()

(2) 入札・契約の手続期間

〔選択肢〕 ①期間は適切である
 ②変わらない
 ③期間が適切であるとはいえない

〔回答欄〕 ()

①~③の選択理由 ()

(3) 工事実施上の工夫等

〔選択肢〕 ①施工上の工夫に期待ができる
 ②変わらない
 ③施工上の工夫に期待ができない

〔回答欄〕 ()

①~③の選択理由 ()

施工能力評価型 (2/4)

設問Ⅲ-2 二極化によるその他の効果(段階選抜・施工計画の簡素化に係る効果を除く)
 設問Ⅲ-1に挙げた視点(1)~(3)以外に、二極化したことにより、調査対象工事において従来方式(簡易型)に比べ良くなった点があればお答えください。

〔回答欄〕

設問Ⅲ-3 二極化によるその他の課題等(段階選抜・施工計画の簡素化に係る課題を除く)
 設問Ⅲ-1に挙げた視点(1)~(3)及びⅢ-2に挙げた視点以外に、二極化したことにより、調査対象工事において従来方式(簡易型)に比べ悪くなった点があればお答えください。

〔回答欄〕

設問Ⅳ 二極化による運用の妥当性

設問Ⅳ-1 調査対象工事における配点ウエイトの妥当性
 調査対象工事における評価区分毎の配点割合の妥当性について、どのようにお考えですか。評価区分毎に該当する項目を選択してください。

(1) 施工計画
 〔選択肢〕 ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる
 ④評価の対象としていない
 〔回答欄〕
 ①~③の選択理由 ()

(2) 企業の能力等(地域精通・貢献含む)
 〔選択肢〕 ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる
 〔回答欄〕
 ①~③の選択理由 ()

(3) 企業の能力等のうち、地域精通・貢献度
 〔選択肢〕 ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる
 ④評価の対象としていない
 〔回答欄〕
 ①~③の選択理由 ()

(4) 技術者の能力等
 〔選択肢〕 ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる
 〔回答欄〕
 ①~③の選択理由 ()

(5) その他(手持ち工事量等)
 〔選択肢〕 ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる
 ④評価の対象としていない
 〔回答欄〕
 ①~③の選択理由 ()

設問Ⅳ-2 調査対象工事に適した評価項目【複数選択可】
 調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)を踏まえた場合、同種工事実績、工事成績、表彰、施工計画の評価項目以外に、どのような評価項目を設定すべきとお考えですか。実際に設定された評価項目も含め、該当する項目を選択(チェック「✓」)してください。
 また設定すべきと選択した評価項目について、その理由をご記入ください。

(1) 企業の能力等
 ①関連分野での技術開発・新技術の活用
 ②品質・環境マネジメントシステムの取組状況(ISO等)
 ③技能者の配置状況、作業拠点の有無、施工機械の保有状況等の施工体制
 ④その他
 ①~④選択理由 ()

(2) 地域精通度・貢献度
 ⑤本支店営業所の所在地
 ⑥企業の近隣地域での施工実績の有無
 ⑦配置予定技術者の近隣地域での施工実績の有無
 ⑧災害協定の有無、協定に基づく活動実績
 ⑨ボランティア活動等
 ⑩その他
 ⑤~⑩選択理由 ()

(3) 技術者の能力等
 ⑪資格
 ⑫CPD(継続教育(CPD))の取組状況
 ⑬その他
 ⑪~⑬選択理由 ()

設問Ⅳ-3 調査対象工事における入札・契約手続期間の妥当性
 ※調査対象工事において段階選抜を採用している場合には、設問Ⅴにお進みください。

調査対象工事において実際に設定された各手続期間の日数を参考に、各手続期間で確保することが望ましい最低限の日数をご記入ください。

手続期間	確保することが望ましい最低限の日数
入札公告～競争参加資格確認申請書及び資料の提出 まで	0 日
競争参加資格確認申請書及び資料の提出～競争参加資格の確認・通知 まで	0 日
競争参加資格の確認・通知～入札書の提出 まで	0 日

注: 日数は、土曜・日曜・祝日を除く。

施工能力評価型 (3/4)

設問V より同種性の高い工事の評価に係る妥当性

設問II-2の企業または技術者の能力等のいずれかで「①評価の対象」を選択した場合には設問V-1、いずれも「②評価の対象外」を選択した場合には設問V-2について、お答えください。

設問V-1 「より同種性の高い工事」実績の評価に関する効果、課題等

より同種性の高い工事の評価は、工事品質の確保の観点から有効であったとお考えですか。該当する項目を選択してください

- 〔選択肢〕 ①有効である
②どちらともいえない
③有効でない

〔回答欄〕
①～③の選択理由 ()

また、より同種性の高い工事の評価について、課題等があれば、お答えください。

〔回答欄〕

※引き続き設問VIにお進みください。

設問V-2 「より同種性の高い工事」実績の評価の必要性

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)等から、「より同種性の高い工事」実績の評価は実施すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①評価を実施する必要があった
②どちらともいえない
③評価を実施する必要はなかった

〔回答欄〕
①～③の選択理由 ()

設問VI 施工計画の審査・評価に係る妥当性

設問II-3において「①評価の対象」を選択した場合には設問VI-1～VI-5、「②評価の対象外」を選択した場合には設問VI-6について、お答えください。

設問VI-1 施工計画の作成に係る体制等【複数選択可】

調査対象工事の施工計画の作成体制について、施工計画の作成に携わった社員等、該当する項目を選択(チェック「✓」)してください。

- ① 監理技術者または主任技術者(配置予定)
 ② 施工計画や技術提案の作成を担当する部署
 ③ 営業担当部署
 ④ その他
 ④の具体内容 ()

また調査対象工事の施工計画の作成に係った社員数と、おおよむの延べ人日数(1日8時間換算)をご記入ください。

作成に係った社員数	0	人
作成に係った延べ人日数	0.0	人日 (1日8時間換算)

設問VI-2 施工計画の作成に係る負担

従来方式(簡易型)と比較し、調査対象工事における施工計画の作成に係る負担の軽減状況について、該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①負担が軽減した
②変わらない
③負担が増加した

〔回答欄〕
①～③の選択理由 ()

設問VI-3 施工計画の作成に要した時間

従来方式(簡易型)と比較し、調査対象工事における施工計画の作成(準備を含む。)に要した時間の増減状況をお答えください。おおよその時間で構いません。

提出資料	作成に要した時間の増減
施工計画	0.0 時間の -

注) 時間(数値)を入力の上、「増」又は「減」を選択してください。

設問VI-4 施工計画の評価結果

調査対象工事における施工計画の評価結果が「×(不可)」であった場合、評価結果に対してどのように感じられていますか。評価結果が「○(可)」であった場合は、設問VI-5にお進みください。

- 〔選択肢〕 ① 評価結果に納得している
② 評価結果に納得していない

〔回答欄〕
②の選択理由 ()

設問VI-5 施工計画が簡素化されたことに関する意見等

二極化により施工計画が簡素化されたことについて、意見等があればお答えください。

〔回答欄〕

良かった点	<input type="text"/>
悪かった点	<input type="text"/>

※引き続き設問VIIにお進みください。

設問VI-6 施工計画の評価の必要性

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)等から、施工計画の評価は実施すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕 ① 評価を実施する必要があった
② どちらともいえない
③ 評価を実施する必要はなかった

〔回答欄〕
①～③の選択理由 ()

設問VII 段階選抜に係る妥当性

設問II-4において「①段階選抜あり」を選択した場合には設問VII-1～VII-3、「②段階選抜なし」を選択した場合には設問VII-4について、お答えください。

設問VII-1 調査対象工事における入札・契約手続期間の妥当性

調査対象工事において実際に設定された各手続期間の日数を参考に、各手続期間で確保することが望ましい最低限の日数をご記入ください。

手続期間	確保することが望ましい最低限の日数
入札公告～申請等書の提出(申請書の作成)	0 日
申請書等の提出～指名通知(一次審査)	0 日
指名通知～施工計画の提出期限(施工計画の作成)	0 日
施工計画の提出期限～競争参加資格の確認・通知(二次審査)	0 日
競争参加資格の確認・通知～入札書の提出(見積り期間)	0 日

注: 日数は、土曜・日曜・祝日を除く。

施工能力評価型 (4/4)

設問Ⅵ-2 二極化により段階選抜を採用したことにより良くなった点
 二極化したことにより、調査対象工事において段階選抜を採用したことで、良くなった点があればお答えください。
 [回答欄]

設問Ⅵ-3 二極化により段階選抜を採用したことにより悪くなった点
 二極化したことにより、調査対象工事において段階選抜を採用したことで、悪くなった点があればお答えください。
 [回答欄]

※引き続き設問Ⅷにお進みください。

設問Ⅵ-4 段階選抜の採用の必要性
 調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)等から、段階選抜を採用すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。
 [選択肢] ①採用する必要がある
 ②どちらともいえない
 ③採用する必要はなかった
 [回答欄]
 ①～③の選択理由 ()

設問Ⅶ 技術者ヒアリングに係る妥当性

設問Ⅱ-5において、「①評価の対象」を選択した場合には設問Ⅶ-1～Ⅶ-3、「②評価の対象外」を選択した場合には設問Ⅶ-4について、お答えください。

設問Ⅶ-1 技術者ヒアリングの時間配分
 調査対象工事における技術者ヒアリングの時間配分(説明、質疑応答)をご記入ください。

区分	1者当たりの時間配分
説明	0 分
質疑応答	0 分
計	0 分

また技術者ヒアリングの時間配分の妥当性について、どのようにお考えですか。該当する項目を選択してください。
 [選択肢] ①時間配分を見直す必要はない
 ②時間配分を見直す必要がある
 [回答欄]
 ②の選択理由 ()

設問Ⅶ-2 技術者ヒアリングの評価結果
 調査対象工事における技術者ヒアリングの評価結果について、該当する項目を選択してください。
 [選択肢] ①評価結果に納得している
 ②評価結果に納得していない
 [回答欄]
 ②の選択理由 ()

設問Ⅶ-3 技術者ヒアリングの効果、課題等
 調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)を踏まえた場合、技術者ヒアリングの実施は、工事品質の確保の観点から有効であったとお考えですか。該当する項目を選択してください。
 [選択肢] ①有効であった
 ②どちらともいえない
 ③有効でなかった
 [回答欄]
 ①～③の選択理由 ()

※設問は以上です。

設問Ⅶ-4 技術者ヒアリングの必要性
 調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)や施工計画の内容等から、技術者ヒアリングは実施すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。
 [選択肢] ①ヒアリングを実施する必要がある
 ②どちらともいえない
 ③ヒアリングを実施する必要はなかった
 [回答欄]
 ①～③の選択理由 ()

設問は以上です。調査にご協力いただき、ありがとうございました。

技術提案評価型 (1/4)

総合評価落札方式(二極化)に関するアンケート調査
〔技術提案評価型S型適用工事・競争参加者(技術提案等作成担当者)用〕

本アンケート調査は、平成25年度の二極化の本格実施に伴い、技術提案評価型S型により入札・契約がなされた工事を対象に実施します。
 調査対象工事について、それぞれ以下の設問に技術提案等の作成担当者(または配置予定監理技術者)がお答えください。

注) 回答欄 : 記述回答 : 選択肢回答

設問Ⅰ 調査対象工事及び回答者の属性

設問Ⅰ-1 調査対象工事の名称等
 調査対象工事の名称、発注整備局及び事務所の名称をご記入ください。

工事名称	〇〇〇工事		
発注機関	整備局名	〇〇地方整備局	

設問Ⅰ-2 回答者の所属
 本調査に回答いただく回答者の所属をご記入ください。

所属	企業名	株式会社〇〇	
	部署名	〇〇支社〇〇課	

設問Ⅰ-3 回答者の調査対象工事との関係【複数選択可】
 本調査に回答いただく回答者の調査対象工事における関係について、該当する項目を選択してください。

①技術提案等の作成担当者
 ②監理技術者または主任技術者(配置予定)
 ③現場代理人(配置予定)
 ④営業担当者
 ⑤その他
 ⑤の具体内容 ()

設問Ⅰ-4 回答者の所属企業における国土交通省発注工事の受注実績
 回答者が所属する企業の、国土交通省直轄工事の受注実績について、過去2か年度の実績件数(概数で構いません)をご記入ください。

平成23年度	約	0	件
平成24年度	約	0	件

設問Ⅱ 調査対象工事の基本情報

設問Ⅱ-1 調査対象工事の施工能力評価型のタイプ
 調査対象工事に適用された新たな総合評価落札方式(以下、「新方式」という。)のタイプを選択してください。

〔選択肢〕 ①技術提案評価型 S型
 ②技術提案評価型 S型(WTO)

〔回答欄〕

設問Ⅱ-2 「より同種性の高い工事」実績の評価の有無
 調査対象工事において、企業・技術者の同種工事実績の評価に対し「より同種性の高い工事」実績の評価の有無を選択してください。

(1) 企業の能力等
 〔選択肢〕 ①評価の対象
 ②評価の対象外

〔回答欄〕

(2) 技術者の能力等
 〔選択肢〕 ①評価の対象
 ②評価の対象外

〔回答欄〕

設問Ⅱ-3 段階選抜の採用の有無
 調査対象工事において、段階選抜の有無を選択してください。

〔選択肢〕 ①段階選抜あり
 ②段階選抜なし

〔回答欄〕

設問Ⅱ-4 技術者ヒアリングの評価の有無
 調査対象工事において、「技術者ヒアリング」(監理能力、技術提案の理解度)に係る評価の対象の有無を選択してください。

〔選択肢〕 ①評価の対象
 ②評価の対象外

〔回答欄〕

設問Ⅲ 二極化による効果、課題等

設問Ⅲ-1 調査対象工事における二極化の効果と課題等
 二極化したことにより、従来方式(標準型I型)と比較し、調査対象工事において確認できた、もしくは期待される効果や課題等、該当する項目を選択してください。

(1) 実績等技術資料(技術提案を除く)の作成
 〔選択肢〕 ①負担が軽減した
 ②変わらない
 ③負担が増加した

〔回答欄〕

①~③の選択理由 ()

(2) 入札・契約の手続期間
 〔選択肢〕 ①期間は適切である
 ②変わらない
 ③期間が適切であるとはいえない

〔回答欄〕

①~③の選択理由 ()

(3) 工品質の確保・向上
 〔選択肢〕 ①向上が期待できる
 ②変わらない
 ③低下の懸念がある

〔回答欄〕

①~③の選択理由 ()

設問Ⅲ-2 二極化によるその他の効果(段階選抜に係る効果を除く)
 設問Ⅲ-1に挙げた視点(1)~(3)以外に、二極化したことにより、調査対象工事において従来方式(標準型I型)に比べ良かった点があればお答えください。

〔回答欄〕

技術提案評価型 (2/4)

設問Ⅲ-3 二極化によるその他の課題等(段階選抜に係る課題を除く)
 設問Ⅲ-1に挙げた視点(1)~(3)以外に、二極化したことにより、調査対象工事において従来方式(標準型I型)に比べ悪くなった点があればお答えください。

[回答欄]

設問Ⅳ 二極化による運用の妥当性

設問Ⅳ-1 調査対象工事における配点ウエイトの妥当性
 調査対象工事における評価区分毎の配点割合の妥当性について、どのようにお考えですか。評価区分毎に該当する項目を選択してください。

(1) 技術提案
 [選択肢] ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる

[回答欄]

①~③の選択理由 ()

(2) 企業の能力等(地域精通・貢献含む)
 [選択肢] ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる

[回答欄]

①~③の選択理由 ()

(3) 企業の能力等のうち、地域精通・貢献度
 [選択肢] ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる
 ④評価の対象としていない

[回答欄]

①~③の選択理由 ()

(4) 技術者の能力等
 [選択肢] ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる

[回答欄]

①~③の選択理由 ()

(5) その他(手持ち工事量等)
 [選択肢] ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる
 ④評価の対象としていない

[回答欄]

①~③の選択理由 ()

設問Ⅳ-2 調査対象工事に適した評価項目【複数選択可】
 調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)を踏まえた場合、同種工事実績、工事成績、表彰、技術提案の評価項目以外に、どのような評価項目を設定すべきとお考えですか。実際に設定された評価項目も含め、該当する項目を選択(チェック「✓」)してください。また設定すべきと選択した評価項目について、その理由をご記入ください。

(1) 企業の能力等

①関連分野での技術開発・新技術の活用
 ②品質・環境マネジメントシステムの取組状況(ISO等)
 ③技能者の配置状況、作業拠点の有無、施工機械の保有状況等の施工体制
 ④その他

①~④選択理由 ()

(2) 地域精通度・貢献度

⑤本支店営業所の所在地
 ⑥企業の近隣地域での施工実績の有無
 ⑦配置予定技術者の近隣地域での施工実績の有無
 ⑧災害協定の有無、協定に基づく活動実績
 ⑨ボランティア活動等
 ⑩その他

⑤~⑩選択理由 ()

(3) 技術者の能力等

⑪資格
 ⑫CPD(継続教育(CPD))の取組状況
 ⑬その他

⑪~⑬選択理由 ()

設問Ⅳ-3 調査対象工事における入札・契約手続期間の妥当性
 ※調査対象工事において段階選抜を採用している場合には、設問Ⅴにお進みください。

調査対象工事において実際に設定された各手続期間の日数を参考に、各手続期間で確保することが望ましい最低限の日数をご記入ください。

手続期間	確保することが望ましい最低限の日数
入札公告～競争参加資格確認申請書及び資料の提出 まで	0 日
競争参加資格確認申請書及び資料の提出～競争参加資格の確認・通知 まで	0 日
競争参加資格の確認・通知～入札書の提出 まで	0 日

注: 日数は、土曜・日曜・祝日を除く。

設問Ⅴ より同種性の高い工事の評価に係る妥当性

設問Ⅱ-2の企業または技術者の能力等のいずれかで「①評価の対象」を選択した場合には設問Ⅴ-1、いずれも「②評価の対象外」を選択した場合には設問Ⅴ-2について、お答えください。

設問Ⅴ-1 「より同種性の高い工事」実績の評価に関する効果、課題等
 より同種性の高い工事の評価は、工事品質の確保の観点から有効であったとお考えですか。該当する項目を選択してください

[選択肢] ①有効である
 ②どちらともいえない
 ③有効でない

[回答欄]

①~③の選択理由 ()

技術提案評価型 (3/4)

また、より同種性の高い工事の評価について、課題等があれば、お答えください。

〔回答欄〕

※引き続き設問Ⅶにお進みください。

設問Ⅴ-2 「より同種性の高い工事」実績の評価の必要性

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)等から、「より同種性の高い工事」実績の評価は実施すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①評価を実施する必要があった
 - ②どちらともいえない
 - ③評価を実施する必要はなかった

〔回答欄〕

①～③の選択理由 ()

設問Ⅵ 技術提案の審査・評価に係る妥当性

設問Ⅵ-1 技術提案の作成に係る体制等【複数選択可】

調査対象工事の技術提案の作成体制について、技術提案の作成に携わった社員等、該当する項目を選択(チェック「✓」)してください。

- ①監理技術者または主任技術者(配置予定)
 - ②施工計画や技術提案の作成を担当する部署
 - ③営業担当部署
 - ④その他
- ④の具体内容 ()

また調査対象工事の技術提案の作成に係った社員数と、おおよむの延べ人数(1日8時間換算)をご記入ください。

作成に係った社員数	0	人
作成に係った延べ人数	0.0	人日 (1日8時間換算)

設問Ⅵ-2 技術提案の作成着手時期

調査対象工事が段階選抜を採用している場合、技術提案の作成に着手した時期について、該当する項目を選択してください。段階選抜を採用していない場合は設問Ⅵ-3にお進みください。

- 〔選択肢〕
- ①入札公告～申請書の提出(申請書の作成)
 - ②申請書等の提出～指名通知(一次審査)
 - ③指名通知～技術提案の提出期限(提案書の作成)

〔回答欄〕

設問Ⅵ-3 技術提案の作成に係る負担

従来方式(標準型I型)と比較し、調査対象工事における技術提案の作成に係る負担の軽減状況について、該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①負担が軽減した
 - ②変わらない
 - ③負担が増加した

〔回答欄〕

①～③の選択理由 ()

設問Ⅵ-4 技術提案の作成に要した時間

従来方式(標準型I型)と比較し、調査対象工事における技術提案の作成(準備を含む。)に要した時間の増減状況をお答えください。おおよその時間で構いません。

提出資料	作成に要した時間の増減
技術提案	0.0 時間の -

注)時間(数値)を入力の上、「増」又は「減」を選択してください。

設問Ⅶ 段階選抜に係る妥当性

設問Ⅱ-3において「①段階選抜あり」を選択した場合には設問Ⅶ-1～Ⅶ-3、「②段階選抜なし」を選択した場合には設問Ⅶ-4について、お答えください。

設問Ⅶ-1 調査対象工事における入札・契約手続期間の妥当性

調査対象工事において実際に設定された各手続期間の日数を参考に、各手続期間で確保することが望ましい最低限の日数をご記入ください。

手続期間	確保することが望ましい最低限の日数
入札公告～申請書等の提出(申請書の作成)	0 日
申請書等の提出～指名通知(一次審査)	0 日
指名通知～技術提案の提出期限(提案書の作成)	0 日
技術提案の提出期限～競争参加資格の確認・通知(二次審査)	0 日
競争参加資格の確認・通知～入札書の提出(見積り期間)	0 日

注:日数は、土曜・日曜・祝日を除く。

設問Ⅶ-2 二極化により段階選抜を採用したことにより良くなった点

二極化したことにより、調査対象工事において段階選抜を採用したことで、良くなった点があればお答えください。

〔回答欄〕

設問Ⅶ-3 二極化により段階選抜を採用したことにより悪くなった点

二極化したことにより、調査対象工事において段階選抜を採用したことで、悪くなった点があればお答えください。

〔回答欄〕

※引き続き設問Ⅷにお進みください。

設問Ⅶ-4 段階選抜の採用の必要性

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)等から、段階選抜を採用すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①採用する必要があった
 - ②どちらともいえない
 - ③採用する必要はなかった

〔回答欄〕

①～③の選択理由 ()

設問Ⅷ 技術者ヒアリングに係る妥当性

設問Ⅱ-4において、「①評価の対象」を選択した場合には設問Ⅷ-1～Ⅷ-3、「②評価の対象外」を選択した場合には設問Ⅷ-4について、お答えください。

設問Ⅷ-1 技術者ヒアリングの時間配分

調査対象工事における技術者ヒアリングの時間配分(説明、質疑応答)をご記入ください。

区分	1者当たりの時間配分
説明	0 分
質疑応答	0 分
計	0 分

技術提案評価型 (4/4)

また技術者ヒアリングの時間配分の妥当性について、どのようにお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①時間配分を見直す必要はない
②時間配分を見直す必要がある

〔回答欄〕
②の選択理由 ()

設問Ⅷ-2 技術者ヒアリングの評価結果

調査対象工事における技術者ヒアリングの評価結果について、該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①評価結果に納得している
②評価結果に納得していない

〔回答欄〕
②の選択理由 ()

設問Ⅷ-3 技術者ヒアリングの効果、課題等

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)を踏まえた場合、技術者ヒアリングの実施は、工事品質の確保の観点から有効であったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①有効であった
②どちらともいえない
③有効でなかった

〔回答欄〕
①~③の選択理由 ()

※設問は以上です。

設問Ⅷ-4 技術者ヒアリングの必要性

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)や技術提案の内容等から、技術者ヒアリングは実施すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①ヒアリングを実施する必要があった
②どちらともいえない
③ヒアリングを実施する必要はなかった

〔回答欄〕
①~③の選択理由 ()

設問は以上です。調査にご協力いただき、ありがとうございました。

施工能力評価型 (1/7)

総合評価落札方式(二極化)に関するアンケート調査 〔施工能力評価型適用工事・発注者(発注・評価担当者)用〕

本アンケート調査は、平成25年度の二極化の本格実施に伴い、施工能力評価型により入札・契約がなされた工事(分任官契約)を対象に実施します。

調査対象工事について、それぞれ以下の設問に発注担当者及び評価担当者がお答えください。

注) 回答欄 : 記述回答 : 選択肢回答

設問Ⅰ 調査対象工事及び回答者の属性

設問Ⅰ-1 調査対象工事の名称等

調査対象工事の名称、発注整備局及び事務所の名称をご記入ください。

工事名称	〇〇〇工事
発注機関	整備局名 〇〇地方整備局
	事務所名 〇〇河川・国道事務所

設問Ⅰ-2 回答者の所属

本調査に回答いただく回答者の所属をご記入ください。

所属	部・事務所名 〇〇河川・国道事務所
	課名 〇〇課

設問Ⅰ-3 回答者の調査対象工事との関係【複数選択可】

本調査に回答いただく回答者の調査対象工事における関係について、該当する項目を選択してください。

- ①発注担当者
 ②評価担当者

設問Ⅱ 調査対象工事の基本情報

設問Ⅱ-1 調査対象工事の施工能力評価型のタイプ

調査対象工事に適用された新たな総合評価落札方式(以下、「新方式」という。)のタイプを選択してください。

- 〔選択肢〕 ①施工能力評価型 II型
②施工能力評価型 I型(施工計画「可」「不可」評価のみ)
③施工能力評価型(施工計画点数評価)

〔回答欄〕

設問Ⅱ-2 調査対象工事の概要

調査対象工事の工事種別(一般土木の場合には、主たる工種)、予定価格、技術的難易度、落札率、低価格入札による落札の有無をお答えください。なお、北海道開発局発注工事においては別紙の対比表を参照の上、該当する工事種別を選択してください。

(1) 工事種別

〔回答欄〕
一般土木の場合 ()

(2) 予定価格(税抜き)

〔回答欄〕 0円

(3) 技術的難易度(発注前評価)

〔回答欄〕

(4) 落札率

〔回答欄〕 0.0%

(5) 低価格入札による落札の有無

〔回答欄〕

設問Ⅱ-3 「より同種性の高い工事」実績の評価の有無

調査対象工事において、企業・技術者の同種工事実績の評価に対し「より同種性の高い工事」実績の評価の有無を選択してください。

(1) 企業の能力等

- 〔選択肢〕 ①評価の対象
②評価の対象外

〔回答欄〕

(2) 技術者の能力等

- 〔選択肢〕 ①評価の対象
②評価の対象外

〔回答欄〕

設問Ⅱ-4 施工計画の評価の有無

調査対象工事において、施工計画に係る評価の対象の有無を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①評価の対象
②評価の対象外

〔回答欄〕

設問Ⅱ-5 段階選抜の採用の有無

調査対象工事において、段階選抜の有無を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①段階選抜あり
②段階選抜なし

〔回答欄〕

設問Ⅱ-6 技術者ヒアリングの評価の有無

調査対象工事において、「技術者ヒアリング」(監理能力、施工計画の理解度)に係る評価の対象の有無を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①評価の対象
②評価の対象外

〔回答欄〕

設問Ⅲ 二極化による効果、課題等

設問Ⅲ-1 調査対象工事における二極化の効果と課題等

二極化したことにより、従来方式(簡易型)と比較し、調査対象工事において確認できた、もしくは期待される効果や課題等、該当する項目を選択してください。

(1) 実績等技術資料(施工計画を除く)の審査(確認)

- 〔選択肢〕 ①負担が軽減した
②変わらない
③負担が増加した

〔回答欄〕

①~③の選択理由 ()

(2) 入札・契約の手続期間

- 〔選択肢〕 ①期間は適切である
②変わらない
③期間が適切であるとはいえない

〔回答欄〕

①~③の選択理由 ()

施工能力評価型 (2/7)

(3) 工事実施上の工夫等

- 〔選択肢〕 ①施工上の工夫に期待ができる
②変わらない
③施工上の工夫に期待ができない

〔回答欄〕
①～③の選択理由 ()

設問Ⅲ-2 調査対象工事の総合評価タイプにおける受注企業の固定化の懸念等

二極化に伴い、競争性の確保の観点から受注企業の固定化の懸念等の有無、固定化を招く要因として考えられる事項等についてお答えください。

(1) 受注企業の固定化の懸念

- 〔選択肢〕 ①固定化の懸念が増加した
②どちらともいえない
③固定化の懸念が減少した

〔回答欄〕

(2) 受注企業の固定化を招く要因、緩和策等

上記(1)にて①を選択した場合、固定化を招く恐れのある要因、更に緩和策等の案があればお答えください。

固定化の要因	<input type="text"/>
緩和策の案等	<input type="text"/>

設問Ⅲ-3 二極化によるその他の効果(段階選抜・施工計画の簡素化に係る効果を除く)

設問Ⅲ-1に挙げた視点(1)～(3)以外に、二極化したことにより、調査対象工事において従来方式(簡易型)に比べ良くなった点があればお答えください。

〔回答欄〕

設問Ⅲ-4 二極化によるその他の課題等(段階選抜・施工計画の簡素化に係る課題を除く)

設問Ⅲ-1に挙げた視点(1)～(3)及びⅢ-2以外に、二極化したことにより、調査対象工事において従来方式(簡易型)に比べ悪くなった点があればお答えください。

〔回答欄〕

設問Ⅳ 二極化による運用の妥当性

設問Ⅳ-1 調査対象工事における評価区分毎の配点

調査対象工事において、実際に設定された評価区分毎の配点(数値)をご記入ください。

評価区分	配点	配点割合
施工計画	0.0 点	#DIV/0! %
企業の能力等	0.0 点	#DIV/0! %
地域精通・貢献度	(0.0 点)	(#DIV/0! %)
技術者の能力等	0.0 点	#DIV/0! %
その他(手持ち工事量等)	0.0 点	#DIV/0! %
計	0.0 点	0.0 %

注1: 段階選抜の配点ではなく、総合評価の配点をご記入ください。

注2: 評価区分そのものが設定されていない場合には「0」点をご記入ください。

設問Ⅳ-2 調査対象工事における配点ウエイトの妥当性

調査対象工事における評価区分毎の配点割合の妥当性について、どのようにお考えですか。評価区分毎に該当する項目を選択してください。

(1) 施工計画

- 〔選択肢〕 ①高いと感じる
②妥当である
③低いと感じる
④評価の対象としていない

〔回答欄〕
①～③の選択理由 ()

(2) 企業の能力等(地域精通・貢献含む)

- 〔選択肢〕 ①高いと感じる
②妥当である
③低いと感じる

〔回答欄〕
①～③の選択理由 ()

(3) 企業の能力等のうち、地域精通・貢献度

- 〔選択肢〕 ①高いと感じる
②妥当である
③低いと感じる
④評価の対象としていない

〔回答欄〕
①～③の選択理由 ()

(4) 技術者の能力等

- 〔選択肢〕 ①高いと感じる
②妥当である
③低いと感じる

〔回答欄〕
①～③の選択理由 ()

(5) その他(手持ち工事量等)

- 〔選択肢〕 ①高いと感じる
②妥当である
③低いと感じる
④評価の対象としていない

〔回答欄〕
①～③の選択理由 ()

設問Ⅳ-3 調査対象工事に適した評価項目【複数選択可】

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)を踏まえた場合、同種工事実績、工事成績、表彰、施工計画の評価項目以外に、どのような評価項目を設定すべきとお考えですか。実際に設定された評価項目も含め、該当する項目を選択(チェック「✓」)してください。

また設定すべきと選択した評価項目について、その理由をご記入ください。

(1) 企業の能力等

- ①関連分野での技術開発・新技術の活用
 ②品質・環境マネジメントシステムの取組状況(ISO等)
 ③技能者の配置状況、作業拠点の有無、施工機械の保有状況等の施工体制
 ④その他

①～④選択理由 ()

施工能力評価型 (3/7)

(2) 地域精通度・貢献度

- ⑤本支店営業所の所在地
- ⑥企業の近隣地域での施工実績の有無
- ⑦配置予定技術者の近隣地域での施工実績の有無
- ⑧災害協定の有無、協定に基づく活動実績
- ⑨ボランティア活動等
- ⑩その他

⑤～⑩選択理由 ()

(3) 技術者の能力等

- ⑪資格
- ⑫CPD(継続教育(CPD))の取組状況
- ⑬その他

⑪～⑬選択理由 ()

設問Ⅳ-4 調査対象工事における入札・契約手続期間の日数と、その妥当性

※調査対象工事において段階選抜を採用している場合には、設問Ⅳ-5にお進みください。

調査対象工事において、実際に設定された各手続期間の日数と、確保することが望ましい最低限の日数をご記入ください。

手続期間	実際に設定された日数	確保することが望ましい最低限の日数
入札公告～競争参加資格確認申請書及び資料の提出 まで	0 日	0 日
競争参加資格確認申請書及び資料の提出～競争参加資格の確認・通知 まで	0 日	0 日
競争参加資格の確認・通知～入札書の提出 まで	0 日	0 日

注:日数は、土曜・日曜・祝日を除く。

設問Ⅳ-5 総合評価審査委員会における調査対象工事に係る審議

調査対象工事の評価項目の設定や審査・評価の結果等に関して、総合評価審査委員会において審議した回数、及び審議事項等をお答えください。

(1) 総合評価審査委員会における審議回数 0 回

(2) 総合評価審査委員会における審議事項等【複数選択可】

- ①評価項目・配点(施工計画のテーマを除く)
- ②施工計画のテーマ
- ③審査・評価結果(施工計画を除く)
- ④施工計画に関する審査・評価結果
- ⑤各競争参加者の加算点
- ⑥その他

⑥の具体内容 ()

設問Ⅴ より同種性の高い工事の評価に係る妥当性

設問Ⅱ-3の企業または技術者の能力等のいずれかで「①評価の対象」を選択した場合には設問Ⅴ-1～Ⅴ-4、いずれも「②評価の対象外」を選択した場合には設問Ⅴ-5・Ⅴ-6について、お答えください。

設問Ⅴ-1 同種性、より同種性の高い工事の設定条件

調査対象工事において、企業及び技術者の能力等の同種工事実績の評価基準として「同種工事」及び「より同種性の高い工事」で設定した条件をそれぞれお答えください。

(1) 企業の能力等

同種工事	()
より同種性の高い工事	()

(2) 技術者の能力等

同種工事	()
より同種性の高い工事	()

設問Ⅴ-2 「より同種性の高い工事」実績の確認方法【複数選択可】

調査対象工事において、競争参加者から提出された「より同種性の高い工事」の実績をどのような方法で確認されましたか。該当する項目を選択してください。

- ①CORINSにより確認
- ②競争参加者から提出された実績証明用の資料により確認
- ③その他

③の具体内容 ()

設問Ⅴ-3 「より同種性の高い工事」の条件設定・実績確認に係る負担

調査対象工事における「より同種性の高い工事」の評価に関して、条件設定や実績確認に要する負担について、どのようにお考えですか。該当する項目を選択してください。

(1) 条件の設定

- 〔選択肢〕 ①負担は軽い
②負担は重い

〔回答欄〕 ()
②の選択理由 ()

(2) 実績の確認

- 〔選択肢〕 ①負担は軽い
②負担は重い

〔回答欄〕 ()
②の選択理由 ()

設問Ⅴ-4 「より同種性の高い工事」実績の評価に関する効果、課題等

より同種性の高い工事の評価は、工事品質の確保の観点から有効であったとお考えですか。該当する項目を選択してください

- 〔選択肢〕 ①有効である
②どちらともいえない
③有効でない

〔回答欄〕 ()
①～③の選択理由 ()

施工能力評価型 (4/7)

また、より同種性の高い工事の評価について、課題等があれば、お答えください。

〔回答欄〕

※引き続き設問V-7にお進みください。

設問V-5 「より同種性の高い工事」実績の評価を実施しなかった理由【複数選択可】

調査対象工事において、「より同種性の高い工事」の実績を評価しなかった理由について、該当する項目を選択(チェック「✓」)してください。

- ①同種工事の実績を確認することで、十分な品質の確保が図られるため
 - ②設定すべき条件がわからなかったため
 - ③設定すべき条件がCORINSで確認できないため
 - ④設定すべき条件を満たす実績を有する企業が少ないため
 - ⑤その他
- ⑤の具体内容 ()

設問V-6 「より同種性の高い工事」実績の評価の必要性

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)等から、「より同種性の高い工事」実績の評価は実施すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①評価を実施する必要がある
 - ②どちらともいえない
 - ③評価を実施する必要はなかった
- 〔回答欄〕
- ①～③の選択理由 ()

※引き続き設問V-7にお進みください。

設問V-7 「より同種性の高い工事の設定例」

国土技術政策総合研究所では「より同種性の高い工事の設定例」(H25.3)を策定し、公表しています。この「より同種性の高い工事の設定例」の活用状況について、該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①参考としている
 - ②参考としていない
 - ③存在していることを知らなかった
- 〔回答欄〕
- ②の選択理由 ()

上記にて①・②を選択した場合、「より同種性の高い工事の設定例」の記載事項等について、意見や要望等があればお答えください。

〔回答欄〕

設問VI 施工計画の審査・評価に係る妥当性

設問II-4において「①評価の対象」を選択した場合には設問VI-1～VI-6、「②評価の対象外」を選択した場合には設問VI-7について、お答えください。

設問VI-1 施工計画のテーマ設定数

調査対象工事の施工計画の評価において、設定されたテーマ数をご記入ください。

施工計画テーマ数 テーマ

設問VI-2 施工計画の審査・評価に係る体制等【複数選択可】

調査対象工事の施工計画の審査・評価の体制について、該当する項目を選択(チェック「✓」)してください。

- ①審査・評価は発注担当事務所のみで実施
 - ②審査・評価は複数事務所で共同実施
 - ③審査・評価に係る資料の整理は外部に委託(発注者支援業務等)
 - ④その他
- ④の具体内容 ()

また調査対象工事の施工計画の審査・評価に係った職員数と、おおよねの延べ人日数(1日8時間換算)をご記入ください。

審査・評価に係った職員数 人 (発注者支援者を除く)
 審査・評価に係った延べ人日数 人日 (1日8時間換算)

設問VI-3 施工計画の審査・評価に係る負担

従来方式(簡易型)と比較し、調査対象工事における施工計画の審査・評価に係る負担の軽減状況について、該当する項目を選択してください。

(1) 施工計画のテーマ設定

- 〔選択肢〕
- ①負担が軽減した
 - ②変わらない
 - ③負担が増加した

〔回答欄〕

①～③の選択理由 ()

(2) 施工計画の審査資料の準備(例:施工計画内容のキーワードの一覧整理等)

- 〔選択肢〕
- ①負担が軽減した
 - ②変わらない
 - ③負担が増加した

〔回答欄〕

①～③の選択理由 ()

(3) 施工計画の審査・評価

- 〔選択肢〕
- ①負担が軽減した
 - ②変わらない
 - ③負担が増加した

〔回答欄〕

①～③の選択理由 ()

設問VI-4 施工計画の審査・評価に要した時間

従来方式(簡易型)と比較し、調査対象工事における1競争参加者当たりの施工計画の審査・評価(準備を含む。)に要した時間の増減状況をお答えください。おおよその時間で構いません。

審査資料	1競争参加者当たりの増減時間
施工計画	0.0 時間の <input type="text" value="-"/>

注)時間(数値)を入力の上、「増」又は「減」を選択してください。

設問VI-5 施工計画の評価結果

調査対象工事における施工計画の提出者数と、評価結果にて「×(不可)」とした数をお答えください。

施工計画提出者数	0	者
うち「×(不可)」評価数	0	者

評価結果において「×(不可)」とした場合、その理由等があれば、お答えください。

〔回答欄〕

施工能力評価型 (5/7)

設問Ⅵ-6 施工計画が簡素化されたことに関する意見等

二極化により施工計画が簡素化されたことについて、意見等があればお答えください。

〔回答欄〕

良かった点	
悪かった点	

※引き続き設問Ⅶにお進みください。

設問Ⅵ-7 施工計画の評価の必要性

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)等から、施工計画の評価は実施すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①評価を実施する必要があった
 - ②どちらともいえない
 - ③評価を実施する必要はなかった

〔回答欄〕

①~③の選択理由 ()

設問Ⅶ 段階選抜に係る妥当性

設問Ⅱ-5において「①段階選抜あり」を選択した場合には設問Ⅶ-1~Ⅶ-5、「②段階選抜なし」を選択した場合には設問Ⅶ-6について、お答えください。

設問Ⅶ-1 調査対象工事における選抜者数

調査対象工事において、入札説明書にて予め明示した選抜予定者数、実際の申請者数と選抜者数について、それぞれお答えください。

予め示した選抜予定者数	0	者
実際の申請者数	0	者
実際の選抜者数	0	者

設問Ⅶ-2 調査対象工事における各種審査書類の提出時期

調査対象工事における実績等技術資料と施工計画の提出時期について、該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①段階選抜の前段階
 - ②段階選抜の後段階
 - ③段階選抜の前段階と後段階の二回
 - ④提出を求めている

(1) 実績等技術資料の提出時期

〔回答欄〕

(2) 施工計画の提出時期

〔回答欄〕

設問Ⅶ-3 調査対象工事における入札・契約手続期間の日数と、その妥当性

調査対象工事において、実際に設定された各手続期間の日数と、確保することが望ましい最低限の日数をご記入ください。

手続期間	実際に設定された日数	確保することが望ましい最低限の日数
入札公告～申請等書の提出(申請書の作成)	0 日	0 日
申請書等の提出～指名通知(一次審査)	0 日	0 日
指名通知～施工計画の提出期限(施工計画の作成)	0 日	0 日
施工計画の提出期限～競争参加資格の確認・通知(二次審査)	0 日	0 日
競争参加資格の確認・通知～入札書の提出(見積り期間)	0 日	0 日

注:日数は、土曜・日曜・祝日を除く。

設問Ⅶ-4 二極化により段階選抜を採用したことにより良くなった点

二極化したことにより、調査対象工事において段階選抜を採用したことで、良くなった点があればお答えください。

〔回答欄〕

設問Ⅶ-5 二極化により段階選抜を採用したことにより悪くなった点

二極化したことにより、調査対象工事において段階選抜を採用したことで、悪くなった点があればお答えください。

〔回答欄〕

※引き続き設問Ⅶ-7にお進みください。

設問Ⅶ-6 段階選抜の採用の必要性

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)等から、段階選抜を採用すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①採用する必要があった
 - ②どちらともいえない
 - ③採用する必要はなかった

〔回答欄〕

①~③の選択理由 ()

※引き続き設問Ⅶ-7にお進みください。

設問Ⅶ-7 段階選抜を採用することにより懸念される課題等

調査対象工事にかかわらず、段階選抜を採用することにより、入札不調の懸念や、一次審査の評価結果で差がでない等の運用上の課題があればお答えください。

〔回答欄〕

施工能力評価型 (6/7)

設問Ⅷ 技術者ヒアリングに係る妥当性

設問Ⅱ-6において、「①評価の対象」を選択した場合には設問Ⅷ-1～Ⅷ-7、「②評価の対象外」を選択した場合には設問Ⅷ-8～Ⅷ-9について、お答えください。

設問Ⅷ-1 技術者ヒアリングの対象

調査対象工事において、技術者ヒアリングの対象とした競争参加者数をご記入ください。

技術者ヒアリングの対象者数 者

設問Ⅷ-2 複数の配置予定技術者の申請があった場合の扱い

調査対象工事において、1競争参加者から複数人の配置予定技術者が申請された場合、技術者ヒアリングにおける取り扱いについて、該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①申請された全ての配置予定技術者を対象にヒアリングを実施
 - ②申請された配置予定技術者のうち、1名を指定してヒアリングを実施
 - ③複数の配置予定技術者を申請した競争参加者がいなかった
 - ④その他

〔回答欄〕
④の具体内容 ()

設問Ⅷ-3 配置予定技術者以外の者の扱い

調査対象工事において、技術者ヒアリング時における配置予定技術者以外の者の取り扱いについて、該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①配置予定技術者以外の者の出席を認めていない
 - ②配置予定技術者以外の者の出席は認めたが、発言は認めていない
 - ③配置予定技術者以外の者の出席と発言を認めた
 - ④その他

〔回答欄〕
④の具体内容 ()

設問Ⅷ-4 技術者ヒアリングの実施体制【複数選択可】

調査対象工事の技術者ヒアリング時における発注者側の実施体制について、該当する項目を選択してください。

- ①本局の幹部クラスの職員
- ②本局の管理職クラスの職員
- ③上記以外の本局の職員
- ④事務所の幹部クラスの職員
- ⑤事務所の管理職クラスの職員
- ⑥上記以外事務所の職員
- ⑦その他

⑦の具体内容 ()

設問Ⅷ-5 技術者ヒアリングの時間配分

調査対象工事の技術者ヒアリングにおける、1競争参加者当たりのヒアリング時間の配分(説明、質疑応答)をご記入ください。

区分	1者当たりの時間配分	
説明	<input type="text" value="0"/>	分
質疑応答	<input type="text" value="0"/>	分
計	<input type="text" value="0"/>	分

設問Ⅷ-6 技術者ヒアリングの評価方法

調査対象工事における技術者ヒアリングの評価方法について、該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①評価結果を3段階の係数(0.0/0.5/1.0)とし、特定の評価項目の加算点に乗じた
 - ②評価結果を3段階超の係数(0.0~1.0)とし、特定の評価項目の加算点に乗じた
 - ③評価結果を点数化し、加算点に直接、加減点した
 - ④評価結果を点数化せず、可・不可(○・×)のみの審査とした
 - ⑤その他

〔回答欄〕
⑤の具体内容 ()

設問Ⅷ-7 技術者ヒアリングの効果、課題等

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)を踏まえた場合、技術者ヒアリングの実施は、工事品質の確保の観点から有効であったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①有効であった
 - ②どちらともいえない
 - ③有効でなかった

〔回答欄〕
①~③の選択理由 ()

※引き続き設問区に進みください。

設問Ⅷ-8 技術者ヒアリングを実施しなかった理由【複数選択可】

調査対象工事において、技術者ヒアリングを実施しなかった理由をお答えください。

- ①技術者ヒアリングを評価対象外とする総合評価落札方式のタイプであったため
- ②配置技術者の監理能力に依存しない工事内容であったため
- ③施工計画が、配置技術者の理解度を確認する必要のないテーマであったため
- ④日程調整等に時間を要し、手続期間が長期化する恐れがあったため
- ⑤その他

⑤の具体内容 ()

設問Ⅷ-9 技術者ヒアリングの必要性

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)や施工計画の内容等から、技術者ヒアリングは実施すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①ヒアリングを実施する必要があった
 - ②どちらともいえない
 - ③ヒアリングを実施する必要はなかった

〔回答欄〕
①~③の選択理由 ()

施工能力評価型 (7/7)

設問IX 総合評価方式ガイドライン

設問区-1 「総合評価方式ガイドライン」

各整備局等では二極化に関するガイドラインや実施方針を定めている他、国土交通省では「国土交通省直轄工事における総合評価落札方式の運用ガイドライン」(H25.3)を策定しています。この総合評価方式ガイドラインの活用状況について、該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①参考としている
 - ②参考としていない
 - ③存在していることを知らなかった

〔回答欄〕

②の選択理由 ()

上記にて①・②を選択した場合、総合評価方式ガイドラインの記載事項等について、意見や要望等があればお答えください。

〔回答欄〕

設問は以上です。調査にご協力いただき、ありがとうございました。

技術提案評価型 (1/6)

総合評価落札方式(二極化)に関するアンケート調査 〔技術提案評価型S型適用工事・発注者(発注・評価担当者)用〕

本アンケート調査は、平成25年度の二極化の本格実施に伴い、技術提案評価型S型(WTO対象含む)により入札・契約がなされた工事(本官契約)を対象に実施します。
調査対象工事について、それぞれ以下の設問に発注担当者及び評価担当者がお答えください。
※複数工事を担当されている場合には、タイプ毎(WTO適否の有無)にそれぞれお答えください。

注) 回答欄 : 記述回答 : 選択肢回答

設問Ⅰ 回答者の属性

設問Ⅰ-1 回答者の所属

本調査に回答いただく回答者の所属をご記入ください。

所属	整備局名	<input type="checkbox"/> 〇〇地方整備局
	部 名	<input type="checkbox"/> 〇〇部
	課 名	<input type="checkbox"/> 〇〇課

設問Ⅰ-2 回答者の調査対象工事との関係【複数選択可】

本調査に回答いただく回答者の調査対象工事における関係について、該当する項目を選択してください。

- ①発注担当者
 ②評価担当者

設問Ⅱ 調査対象工事の基本情報

設問Ⅱ-1 調査対象工事の技術提案評価型S型のタイプ

調査対象工事に適用された新たな総合評価落札方式(以下、「新方式」という。)のタイプを選択してください。

- 〔選択肢〕 ①技術提案評価型 S型
②技術提案評価型 S型(WTO)

〔回答欄〕

設問Ⅱ-2 調査対象工事の概要【複数選択可】

調査対象工事の工事種別(一般土木の場合には、主たる工種)、をお答えください。なお、北海道開発局発注工事においては別紙の対比表を参照の上、該当する工事種別を選択してください。

- 1 一般土木工事
- 2 アスファルト舗装工事
- 3 鋼橋上部工事
- 4 造園工事
- 5 建築工事
- 6 木造建築工事
- 7 電気設備工事
- 8 暖冷房衛生設備工事
- 9 セメント・コンクリート舗装工事
- 10 プレストレスト・コンクリート工事
- 11 法面処理工事
- 12 塗装工事
- 13 維持修繕工事
- 14 河川しゅんせつ工事
- 15 グラウト工事
- 16 杭打工事
- 17 さく井工事
- 18 プレハブ建築工事
- 19 機械設備工事
- 20 通信設備工事
- 21 受変電設備工事

- 22 その他(北海道開発局における管、防水加工、その他)
一般土木の場合 ()

設問Ⅱ-3 「より同種性の高い工事」実績の評価の有無

調査対象工事において、企業・技術者の同種工事実績の評価に対し「より同種性の高い工事」実績の評価の有無を選択してください。

(1) 企業の能力等

- 〔選択肢〕 ①評価の対象
②評価の対象外

〔回答欄〕

(2) 技術者の能力等

- 〔選択肢〕 ①評価の対象
②評価の対象外

〔回答欄〕

設問Ⅱ-4 段階選抜の採用の有無

調査対象工事において、段階選抜の有無を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①段階選抜あり
②段階選抜なし

〔回答欄〕

設問Ⅱ-5 技術者ヒアリングの評価の有無

調査対象工事において、「技術者ヒアリング」(監理能力、技術提案の理解度)に係る評価の対象の有無を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①評価の対象
②評価の対象外

〔回答欄〕

設問Ⅲ 二極化による効果、課題等

設問Ⅲ-1 調査対象工事における二極化の効果と課題等

二極化としたことにより、従来方式(標準型I型)と比較し、調査対象工事において確認できた、もしくは期待される効果や課題等、該当する項目を選択してください。

(1) 実績等技術資料(技術提案を除く)の審査(確認)

- 〔選択肢〕 ①負担が軽減した
②変わらない
③負担が増加した

〔回答欄〕

①~③の選択理由 ()

(2) 入札・契約の手續期間

- 〔選択肢〕 ①期間は適切である
②変わらない
③期間が適切であるとはいえない

〔回答欄〕

①~③の選択理由 ()

(3) 工品質の確保・向上

- 〔選択肢〕 ①向上が期待できる
②変わらない
③低下の懸念がある

〔回答欄〕

①~③の選択理由 ()

技術提案評価型 (2/6)

設問Ⅲ-2 二極化によるその他の効果(段階選抜に係る効果を除く)
 設問Ⅲ-1に挙げた視点(1)~(3)以外に、二極化したことにより、調査対象工事において従来方式(標準型工型)に比べ良くなった点があればお答えください。

〔回答欄〕

設問Ⅲ-3 二極化によるその他の課題等(段階選抜に係る課題を除く)
 設問Ⅲ-1に挙げた視点(1)~(3)以外に、二極化したことにより、調査対象工事において従来方式(標準型工型)に比べ悪くなった点があればお答えください。

〔回答欄〕

設問Ⅳ 二極化による運用の妥当性

設問Ⅳ-1 調査対象工事における評価区分毎の配点
 調査対象工事において、実際に設定された評価区分毎の配点(数値)をご記入ください。

評価区分	配点	配点割合
技術提案	0.0 点	#DIV/0! %
企業の能力等	0.0 点	#DIV/0! %
地域精通・貢献度	(0.0 点)	(#DIV/0! %)
技術者の能力等	0.0 点	#DIV/0! %
その他(手持ち工事量等)	0.0 点	#DIV/0! %
計	0.0 点	0.0 %

注1: 段階選抜の配点ではなく、総合評価の配点をご記入ください。
 注2: 評価区分そのものが設定されていない場合には「0」点とご記入ください。

設問Ⅳ-2 調査対象工事における配点ウエイトの妥当性
 調査対象工事における評価区分毎の配点割合の妥当性について、どのようにお考えですか。評価区分毎に該当する項目を選択してください。

- (1) **技術提案**
 〔選択肢〕 ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる
 〔回答欄〕
 ①~③の選択理由 ()
- (2) **企業の能力等(地域精通・貢献含む)**
 〔選択肢〕 ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる
 〔回答欄〕
 ①~③の選択理由 ()
- (3) **企業の能力等のうち、地域精通・貢献度**
 〔選択肢〕 ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる
 ④評価の対象としていない
 〔回答欄〕
 ①~③の選択理由 ()

- (4) **技術者の能力等**
 〔選択肢〕 ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる
 〔回答欄〕
 ①~③の選択理由 ()

- (5) **その他(手持ち工事量等)**
 〔選択肢〕 ①高いと感じる
 ②妥当である
 ③低いと感じる
 ④評価の対象としていない
 〔回答欄〕
 ①~③の選択理由 ()

設問Ⅳ-3 調査対象工事に適した評価項目【複数選択可】
 調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)を踏まえた場合、同種工事実績、工事成績、表彰、技術提案の評価項目以外に、どのような評価項目を設定すべきとお考えですか。実際に設定された評価項目も含め、該当する項目を選択(チェック「✓」)してください。また設定すべきと選択した評価項目について、その理由をご記入ください。

- (1) **企業の能力等**
 ①関連分野での技術開発・新技術の活用
 ②品質・環境マネジメントシステムの取組状況(ISO等)
 ③技能者の配置状況、作業拠点の有無、施工機械の保有状況等の施工体制
 ④その他
 ①~④選択理由 ()
- (2) **地域精通度・貢献度**
 ⑤本支店営業所の所在地
 ⑥企業の近隣地域での施工実績の有無
 ⑦配置予定技術者の近隣地域での施工実績の有無
 ⑧災害協定の有無、協定に基づく活動実績
 ⑨ボランティア活動等
 ⑩その他
 ⑤~⑩選択理由 ()
- (3) **技術者の能力等**
 ①資格
 ②CPD(継続教育(CPD))の取組状況
 ③その他
 ①~③選択理由 ()

設問Ⅳ-4 調査対象工事における入札・契約手続期間の日数と、その妥当性
 ※調査対象工事において段階選抜を採用している場合には、設問Ⅳ-5にお進みください。

調査対象工事において、実際に設定された各手続期間の日数と、確保することが望ましい最低限の日数をご記入ください。

手続期間	実際に設定された日数	確保することが望ましい最低限の日数
入札公告～競争参加資格確認申請書及び資料の提出まで	0 日	0 日
競争参加資格確認申請書及び資料の提出～競争参加資格の確認・通知まで	0 日	0 日
競争参加資格の確認・通知～入札書の提出まで	0 日	0 日

注: 日数は、土曜・日曜・祝日を除く。

技術提案評価型 (3/6)

設問Ⅳ-5 総合評価審査委員会における調査対象工事に係る審議

調査対象工事の評価項目の設定や審査・評価の結果等に関して、総合評価審査委員会において審議した回数、及び審議事項等をお答えください。

(1) 総合評価審査委員会における審議回数 回

(2) 総合評価審査委員会における審議事項等 **【複数選択可】**

- ①評価項目・配点(技術提案のテーマを除く)
 - ②技術提案のテーマ
 - ③審査・評価結果(技術提案を除く)
 - ④技術提案に関する審査・評価結果
 - ⑤各競争参加者の加算点
 - ⑥その他
- ⑥の具体内容 ()

設問Ⅴ より同種性の高い工事の評価に係る妥当性

設問Ⅱ-3の企業または技術者の能力等のいずれかで「①評価の対象」を選択した場合には設問Ⅴ-1～Ⅴ-4、いずれも「②評価の対象外」を選択した場合には設問Ⅴ-5・Ⅴ-6について、お答えください。

設問Ⅴ-1 同種性、より同種性の高い工事の設定条件

調査対象工事において、企業及び技術者の能力等の同種工事実績の評価基準として「同種工事」及び「より同種性の高い工事」で設定した条件をそれぞれお答えください。

(1) 企業の能力等

同種工事	<input type="text"/>
より同種性の高い工事	<input type="text"/>

(2) 技術者の能力等

同種工事	<input type="text"/>
より同種性の高い工事	<input type="text"/>

設問Ⅴ-2 「より同種性の高い工事」実績の確認方法 **【複数選択可】**

調査対象工事において、競争参加者から提出された「より同種性の高い工事」の実績をどのような方法で確認されましたか。該当する項目を選択してください。

- ①CORINSにより確認
 - ②競争参加者から提出された実績証明用の資料により確認
 - ③その他
- ③の具体内容 ()

設問Ⅴ-3 「より同種性の高い工事」の条件設定・実績確認に係る負担

調査対象工事における「より同種性の高い工事」の評価に関して、条件設定や実績確認に要する負担について、どのようにお考えですか。該当する項目を選択してください。

(1) 条件の設定

- 【選択肢】 ①負担は軽い
②負担は重い
- 【回答欄】
- ②の選択理由 ()

(2) 実績の確認

- 【選択肢】 ①負担は軽い
②負担は重い
- 【回答欄】
- ②の選択理由 ()

設問Ⅴ-4 「より同種性の高い工事」実績の評価に関する効果、課題等

より同種性の高い工事の評価は、工事品質の確保の観点から有効であったとお考えですか。該当する項目を選択してください

- 【選択肢】 ①有効である
②どちらともいえない
③有効でない
- 【回答欄】
- ①～③の選択理由 ()

また、より同種性の高い工事の評価について、課題等があれば、お答えください。

【回答欄】

※引き続き設問Ⅴ-7にお進みください。

設問Ⅴ-5 「より同種性の高い工事」実績の評価を実施しなかった理由 **【複数選択可】**

調査対象工事において、「より同種性の高い工事」の実績を評価しなかった理由について、該当する項目を選択(チェック「✓」)してください。

- ①同種工事の実績を確認することで、十分な品質の確保が図られるため
 - ②設定すべき条件がわからなかったため
 - ③設定すべき条件がCORINSで確認できないため
 - ④設定すべき条件を満たす実績を有する企業が少いため
 - ⑤その他
- ⑤の具体内容 ()

設問Ⅴ-6 「より同種性の高い工事」実績の評価の必要性

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)等から、「より同種性の高い工事」実績の評価は実施すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 【選択肢】 ①評価を実施する必要があった
②どちらともいえない
③評価を実施する必要はなかった
- 【回答欄】
- ①～③の選択理由 ()

※引き続き設問Ⅴ-7にお進みください。

設問Ⅴ-7 「より同種性の高い工事の設定例」

国土技術政策総合研究所では「より同種性の高い工事の設定例」(H25.3)を策定し、公表しています。この「より同種性の高い工事の設定例」の活用状況について、該当する項目を選択してください。

- 【選択肢】 ①参考としている
②参考していない
③存在していることを知らなかった
- 【回答欄】
- ②の選択理由 ()

上記にて①・②を選択した場合、「より同種性の高い工事の設定例」の記載事項等について、意見や要望等があればお答えください。

【回答欄】

技術提案評価型 (4/6)

設問VI 技術提案の審査・評価に係る妥当性

設問VI-1 技術提案のテーマ設定数
 調査対象工事の技術提案の評価において、設定されたテーマ数をご記入ください。
 技術提案テーマ数 テーマ

設問VI-2 技術提案の審査、評価に係る体制等【複数選択可】
 調査対象工事の技術提案の審査・評価の体制について、該当する項目を選択(チェック「✓」)してください。

①審査・評価は発注担当事務所のみで実施
 ②審査・評価は複数事務所で共同実施
 ③審査・評価に係る資料の整理は外部に委託(発注者支援業務等)
 ④その他 ()

また調査対象工事の技術提案の審査・評価に係った職員数と、おおよその延べ人日数(1日8時間換算)をご記入ください。
 審査・評価に係った職員数 人(発注者支援者を除く)
 審査・評価に係った延べ人日数 人日(1日8時間換算)

設問VI-3 技術提案の審査・評価に係る負担
 従来方式(標準型I型)と比較し、調査対象工事における技術提案の審査・評価に係る負担の軽減状況について、該当する項目を選択してください。

(1) **技術提案のテーマ設定**
 [選択肢] ①負担が軽減した
 ②変わらない
 ③負担が増加した
 [回答欄]
 ①~③の選択理由 ()

(2) **技術提案の審査資料の準備(例:技術提案内容のキーワードの一覧整理等)**
 [選択肢] ①負担が軽減した
 ②変わらない
 ③負担が増加した
 [回答欄]
 ①~③の選択理由 ()

(3) **技術提案の審査・評価**
 [選択肢] ①負担が軽減した
 ②変わらない
 ③負担が増加した
 [回答欄]
 ①~③の選択理由 ()

設問VI-4 技術提案の審査・評価に要した時間
 従来方式(標準型I型)と比較し、調査対象工事における1競争参加者当たりの技術提案の審査・評価(準備を含む。)に要した時間の増減状況をお答えください。おおよその時間で構いません。

審査資料	1競争参加者当たりの増減時間	注)時間(数値)を入力の上、「増」又は「減」を選択してください。
技術提案	<input type="text" value="0.0"/> 時間の <input type="text" value="-"/>	

設問VII 段階選抜に係る妥当性

設問II-4において「①段階選抜あり」を選択した場合には設問VII-1~VII-5、「②段階選抜なし」を選択した場合には設問VII-6について、お答えください。

設問VII-1 調査対象工事における選抜者数
 調査対象工事において、入札説明書にて予め明示した選抜予定者数、実際の申請者数と選抜者数について、それぞれお答えください。

予め明示した選抜予定者数	<input type="text" value="0"/>	者
実際の申請者数	<input type="text" value="0"/>	者
実際の選抜者数	<input type="text" value="0"/>	者

設問VII-2 調査対象工事における各種審査用書類の提出時期
 調査対象工事における実績等技術資料と技術提案の提出時期について、該当する項目を選択してください。

[選択肢] ①段階選抜の前段階
 ②段階選抜の後段階
 ③段階選抜の前段階と後段階の二回
 ④提出を求めていない

(1) **実績等技術資料の提出時期**
 [回答欄]

(2) **技術提案の提出時期**
 [回答欄]

設問VII-3 調査対象工事における入札・契約手続期間の日数と、その妥当性
 調査対象工事において、実際に設定された各手続期間の日数と、確保することが望ましい最低限の日数をご記入ください。

手続期間	実際に設定された日数	確保することが望ましい最低限の日数
入札公告~申請等書の提出(申請書の作成)	<input type="text" value="0"/> 日	<input type="text" value="0"/> 日
申請書等の提出~指名通知(一次審査)	<input type="text" value="0"/> 日	<input type="text" value="0"/> 日
指名通知~技術提案の提出期限(提案書の作成)	<input type="text" value="0"/> 日	<input type="text" value="0"/> 日
技術提案の提出期限~競争参加資格の確認・通知(二次審査)	<input type="text" value="0"/> 日	<input type="text" value="0"/> 日
競争参加資格の確認・通知~入札書の提出(見積り期間)	<input type="text" value="0"/> 日	<input type="text" value="0"/> 日

注:日数は、土曜・日曜・祝日を除く。

設問VII-4 二極化により段階選抜を採用したことにより良くなった点
 二極化したことにより、調査対象工事において段階選抜を採用したことで、**良くなった点**があればお答えください。
 [回答欄]

設問VII-5 二極化により段階選抜を採用したことにより悪くなった点
 二極化したことにより、調査対象工事において段階選抜を採用したことで、**悪くなった点**があればお答えください。
 [回答欄]

※引き続き設問VII-7にお進みください。

技術提案評価型 (5/6)

設問Ⅵ-6 段階選抜の採用の必要性

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)等から、段階選抜を採用すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①採用する必要があった
②どちらともいえない
③採用する必要はなかった

〔回答欄〕

①～③の選択理由 () ※引き続き設問Ⅶ-7にお進みください。

設問Ⅶ-7 段階選抜を採用することにより懸念される課題等

調査対象工事にかかわらず、段階選抜を採用することにより、入札不調の懸念や、一次審査の評価結果で差がでない等の運用上の課題があればお答えください。

〔回答欄〕

設問Ⅷ 技術者ヒアリングに係る妥当性

設問Ⅱ-5において、「①評価の対象」を選択した場合には設問Ⅷ-1～Ⅷ-7、「②評価の対象外」を選択した場合には設問Ⅷ-8～Ⅷ-9について、お答えください。

設問Ⅷ-1 技術者ヒアリングの対象

調査対象工事において、技術者ヒアリングの対象とした競争参加者数をご記入ください。

技術者ヒアリングの対象者数 0 者

設問Ⅷ-2 複数の配置予定技術者の申請があった場合の扱い

調査対象工事において、1競争参加者から複数人の配置予定技術者が申請された場合、技術者ヒアリングにおける取り扱いについて、該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①申請された全ての配置予定技術者を対象にヒアリングを実施
②申請された配置予定技術者のうち、1名を指定してヒアリングを実施
③複数の配置予定技術者を申請した競争参加者がいなかった
④その他

〔回答欄〕

④の具体内容 ()

設問Ⅷ-3 配置予定技術者以外の者の扱い

調査対象工事において、技術者ヒアリング時における配置予定技術者以外の者の取り扱いについて、該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①配置予定技術者以外の者の出席を認めていない
②配置予定技術者以外の者の出席は認めたが、発言は認めていない
③配置予定技術者以外の者の出席と発言を認めた
④その他

〔回答欄〕

④の具体内容 ()

設問Ⅷ-4 技術者ヒアリングの実施体制【複数選択可】

調査対象工事の技術者ヒアリング時における発注者側の実施体制について、該当する項目を選択してください。

- ①本局の幹部クラスの職員
 ②本局の管理職クラスの職員
 ③上記以外の本局の職員
 ④事務所の幹部クラスの職員
 ⑤事務所の管理職クラスの職員
 ⑥上記以外の事務所の職員
 ⑦その他
⑦の具体内容 ()

設問Ⅷ-5 技術者ヒアリングの時間配分

調査対象工事の技術者ヒアリングにおける、1競争参加者当たりのヒアリング時間の配分(説明、質疑応答)をご記入ください。

区分	1者当たりの時間配分	
説明	0	分
質疑応答	0	分
計	0	分

設問Ⅷ-6 技術者ヒアリングの評価方法

調査対象工事における技術者ヒアリングの評価方法について、該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①評価結果を3段階の係数(0.0/0.5/1.0)とし、特定の評価項目の加算点に乗じた
②評価結果を3段階超の係数(0.0～1.0)とし、特定の評価項目の加算点に乗じた
③評価結果を点数化し、加算点に直接、加減点した
④評価結果を点数化せず、可・不可(○・×)のみの審査とした
⑤その他

〔回答欄〕

⑤の具体内容 ()

設問Ⅷ-7 技術者ヒアリングの効果、課題等

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)を踏まえた場合、技術者ヒアリングの実施は、工事品質の確保の観点から有効であったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕 ①有効であった
②どちらともいえない
③有効でなかった

〔回答欄〕

①～③の選択理由 () ※引き続き設問Ⅷ区にお進みください。

設問Ⅷ-8 技術者ヒアリングを実施しなかった理由【複数選択可】

調査対象工事において、技術者ヒアリングを実施しなかった理由をお答えください。

- ①技術者ヒアリングを評価対象外とする総合評価落札方式のタイプであったため
 ②配置技術者の監理能力に依存しない工事内容であったため
 ③技術提案が、配置技術者の理解度を確認する必要のないテーマであったため
 ④日程調整等に時間を要し、手続期間が長期化する恐れがあったため
 ⑤その他
⑤の具体内容 ()

技術提案評価型 (6/6)

設問Ⅷ-9 技術者ヒアリングの必要性

調査対象工事の特性(工事内容、難易度等)や技術提案の内容等から、技術者ヒアリングは実施すべきであったとお考えですか。該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①実施する必要があった
 - ②どちらともいえない
 - ③実施する必要はなかった

〔回答欄〕

①~③の選択理由 ()

設問Ⅸ 総合評価方式ガイドライン

設問Ⅸ-1 「総合評価方式ガイドライン」

各整備局等では二極化に関するガイドラインや実施方針を定めている他、国土交通省では「国土交通省直轄工事における総合評価落札方式の運用ガイドライン」(H25.3)を策定しています。この総合評価方式ガイドラインの活用状況について、該当する項目を選択してください。

- 〔選択肢〕
- ①参考としている
 - ②参考していない
 - ③存在していることを知らなかった

〔回答欄〕

②の選択理由 ()

上記にて①・②を選択した場合、総合評価方式ガイドラインの記載事項等について、意見や要望等があればお答えください。

〔回答欄〕

設問は以上です。調査にご協力いただき、ありがとうございました。

発注者責任を果たすための今後の建設生産・監理システムのあり方に関する懇談会
(第2回平成25年12月25日)資料

現状と課題

- 建設投資減少に伴う受注競争の激化、若手入職者の減少、世代交代による技術伝承の危機を迎えている。
- 一方、総合評価方式において、配置予定技術者の工事实績等を重視した評価となっているため、若手技術者が配置されにくい状況。
- 発注者として、将来的な工事品質の低下への懸念から若手技術者の配置を促す取り組みが必要。

- 論点①: 発注者としてどのような配置促進策が可能か？
- 論点②: 工事の品質低下への対応策は？
- 論点③: 若手以外への不公平になっていないか？

検討の方向性

- 方策の検討にあたっては、以下の視点に留意する。

配置技術者の競争参加資格要件とするか？総合評価の加点要件とするか？

若手以外への不公平になっていないか？

若手技術者の配置を促す入札契約方式のパターン			
A. 競争参加要件 配置技術者における要件	A-1. 若手技術者の配置を促す取組	A-1-1. 主任(監理)技術者として配置	① 若手技術者の配置を義務付ける競争参加資格の設定
		A-1-2. 担当技術者・現場代理人として配置	② 若手技術者の配置を義務付け
	A-2. 補佐する技術者(補助者)を配置し、若手技術者の配置を促す取組	A-2-1. 主任(監理)技術者として配置	③ 若手技術者の代わりに、それを補佐する技術者に要件を設定
B. 総合評価における 配置技術者の加点要件	B-1. 若手技術者の配置を促す取組	B-1-1. 主任(監理)技術者として配置	④ 若手技術者の配置を優位に評価
		B-1-2. 担当技術者・現場代理人として配置	⑤ 若手技術者の配置が不利とならない評価
	B-2. 補佐する技術者(補助者)を配置し、若手技術者の配置を促す取組等		⑥ 若手技術者の配置を優位に評価
			⑦ 若手技術者の代わりに、それを補佐する技術者(専任)を評価
			⑧ 若手技術者を補佐する技術者(非専任)を優位に評価

工事の品質低下の対応策は？
企業サポートをどう担保するか？補助者を専任とするか？

担当技術者としての実績を評価するか？
(その場合の技術者データの蓄積と活用のあり方は？)

論点④: 若手技術者の配置を促す入札契約方式を検討するにあたり、今後の実施方針(案)において、留意すべき事項などないか?

各整備局等が取り組んでいる若手技術者の配置促進策(試行工事)について、競争参加者・発注者を対象としたアンケート調査を実施し、試行工事の実施状況や競争参加状況、試行工事の効果や課題等(例えば建設企業等の「技術者の配置」の行動、品質低下の懸念等)を把握・分析する。

受発注者を対象としたアンケート調査の実施について

【調査の方法】

	発注者	競争参加者
調査対象者	各地方整備局等	若手技術者の配置を促す試行工事への競争参加者
調査単位	若手技術者の配置を促す施策単位	企業単位

(1) 発注者向け【施策単位】

調査項目	
I 若手技術者の配置促進策(試行工事)の取組内容	
I-1	試行対象工事の範囲
I-2	若手技術者の対象範囲(定義)
I-3	配置される若手技術者の取扱(競争参加資格、総合評価の評価項目等)
I-4	若手技術者へのサポート体制
I-5	補助員の配置に関する取扱(競争参加資格、総合評価の評価項目等)
I-6	企業サポート等に関する取扱(競争参加資格、総合評価の評価項目等)
II 若手技術者の配置促進策(試行工事)の結果	
II-1	配置促進策の試行状況
II-2	若手技術者が実際に配置された事例
II-3	試行を通じて把握された配置促進策の効果、課題等
II-4	競争参加者・業界団体等からの評価・要望等
II-5	配置促進策の今後の展開等

(2) 受注者向け【企業単位】

調査項目	
I 回答者の属性	
I-1	国土交通省直轄工事の受注状況
I-2	技術職員の年齢構成、資格保有状況、現場配置状況
I-3	新たな総合評価方式と若手技術者の配置
I-4	企業として特に育成したい若手技術者の年齢層・資格・実績
II 各地方整備局等における若手技術者配置促進策(試行工事)の評価	
II-1	各地方整備局等における若手技術者配置促進策の効果や課題等
II-2	受注した試行工事における施工上の効果や課題等
III 若手技術者の配置を促す施策として望ましい姿	
III-1	若手技術者の配置を促進する必要がある工事
III-2	若手技術者に関する競争参加資格及び総合評価の評価項目
III-3	若手技術者の支援体制に関する競争参加資格及び総合評価の評価項目
III-4	その他、意見・要望等

注) 赤字: 第1回懇談会から見直した調査項目

発注者責任を果たすための今後の建設生産・監理システムのあり方に関する懇談会
(第2回平成25年12月25日)資料

【参考】整備局等における試行の具体的な取り組み例

取り組みパターン			具体的な要件・評価の例	試行例	
A. 競争参加要件における配置技術者の要件	A-1. 若手技術者の配置を促す取組	A-1-1. 主任(監理)技術者として配置	① 若手技術者の配置を義務付ける競争参加資格の設定	● 「一定の年齢以下」、「主任(監理)技術者未経験者」の設定	北海道、九州
		A-1-2. 担当技術者・現場代理人として配置	② 若手技術者の配置を義務付け	● 「一定の年齢以下」の設定	
	A-2. 補佐する技術者(補助者)を配置し、若手技術者の配置を促す取組	A-2-1. 主任(監理)技術者として配置	③ 若手技術者の代わりに、それを補佐する技術者に要件を設定	● 若手技術者を補佐する技術者の「保有資格」、「施工実績」の設定	北海道、北陸、近畿
B. 総合評価における配置技術者の加点要件	B-1. 若手技術者の配置を促す取組	B-1-1. 主任(監理)技術者として配置	④ 若手技術者の配置を優位に評価	● 「一定の年齢以下」、「主任(監理)技術者未経験者」を加点評価	
			⑤ 若手技術者の配置が不利としない評価	⑤-1 評価項目として設定しない	● 「施工実績」の評価を除外 ● 「工事成績」の評価を除外 ● 「表彰」の評価を除外
		⑤-2 評価基準の緩和		● 「保有資格」の資格取得後の経験年数を緩和	北海道、九州
				● 「施工実績」の対象役職を拡大 (例:現場代理人・担当技術者としての従事実績を主任(監理)技術者と同等又は1/2評価)	中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄
		● 「工事成績」の対象役職を拡大 (例:現場代理人・担当技術者としての従事実績を主任(監理)技術者と同等又は1/2評価)	中部、近畿、四国、九州、沖縄		
	B-1-2. 担当技術者・現場代理人として配置	⑥ 若手技術者の配置を優位に評価	● 「保有資格」、「一定の年齢以下」を加点評価	関東	
	B-2. 補佐する技術者(補助者)を配置し、若手技術者の配置を促す取組等		⑦ 若手技術者の代わりに、それを補佐する技術者(専任)を評価	● 若手技術者を補佐する技術者(専任)の「保有資格」、「施工実績」を加点評価	北陸、近畿、沖縄
⑧ 若手技術者を補佐する技術者(非専任)を優位に評価			● 若手技術者を補佐する技術者(非専任)の「配置」を加点評価 ● 若手技術者を補佐する技術者(非専任)の「保有資格」、「施工実績」等を加点評価	九州 北海道	